

こんごういん ニュース 金剛院 NEWS

京都・仏具修復見学ご報告

職人さんの伝統技で順調に進む修復



金剛院建築委員会の皆さんと本堂で使用している仏具の修復

状況を京都へ視察に行ってきました。

まず初めに「飾り金物」の修復をお願いしている職人さんへ。驚いたことに、金剛院の飾り金物は、現在の当主である職人さんの父上が、50年前に作成したものとか。形や模様で、すぐにわかったそうです。先代が作成した飾り金物と50年ぶりに再会して、ご当主は本当に嬉しそうでした。



次は、金箔押し（職人さんです）の職人さんです。見てみると簡単そうに見えますが、70歳にな

ってその技術の加減がやっとわかったというくらいですから、これも相当に奥が深そうです。

そして本堂のカネ（鑿子：けいす）を新調している職人さんを訪ねました。一枚の金属板をカンカンと叩き、丸くのぼして大きなカネを作るので1枚～2枚とカネは数えます。

また、カネの底の厚さは、紙1枚分の薄さなので、手で押すと凹んでしまいます。

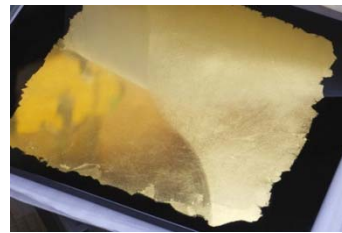


細かい「こだわり」をもって、伝統技術を継承する仏具職人さんの世界観を間近

に拝見して、その奥深さに、改めて感動の視察となりました。



仏具の組み手などを隠し補強と装飾性を増す「飾り金物（かざりかなもの）」
（左）。仏具に金箔を箔押しする職人さん（下）。



金閣寺の金箔管理もしている職人さんが薄い金箔をシワなく張り付けていきます。



本堂のカネ「鑿子（けいす）」を新調中。厚さ5cm・A4大の真鍮板（左）を叩いて伸ばします。



宮殿（ぐうでん・本尊さまの入れ物）の袖板は蒔絵で新調。漆に金粉を蒔いて立体感をもたせます。

★「飾り金物」は手で持ってみるとズッシリと重いものでした。仏具に取り付けてしまえば二度と持てないのですから、実に貴重な体験になりました。また、鑿子を手打ち製法で行っているのは、もはやこの職人さんだけなので、とても貴重なものになりますね。さてさて、どんな音色になりますか。ゴ〜〜〜ン！！ 完成は今年の12月ごろです。お楽しみに！（住職記）